

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	53.6%	56.7%	62.9%	56.7%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○	/	→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○	/	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	93	171	165	367	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	3.1	5.7	5.5	12.2	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	/	%	/	/	/	/	近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

注)全学的な視点、個別的な視点について
全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目
個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目

【5.0.1 入学者受け入れ方針】

2004年度以降入学生についての追跡調査は複数の観点から試みているが、母数が少ないこともあり、明確な傾向は表れていない。

【5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法】

2008年度入試(2007年度実施)として、従来のA日程に準じたA方式(個別日程3科目型)、大学入試センター試験を利用した入試(3月出願・4科目型)に加え、F方式(全学日程3科目型)、学部独自入試(英語・小論文型)、大学入試センター試験を利用した入試(1月出願・3科目型)を実施した。

【5.0.5 アドミッションズ・オフィス入試】

2008年度AO入試について募集人員を見直し、10名とした。それに対して志願者は12名であった。

【5.0.9 科目等履修生、聴講生等】

特に科目等履修生について、将来的な神学部への正規入学を見据えた受講者が増えつつあるとの認識から、受講の目的を明確化した学習課程(ディプロマ・コース)については、引き続き課題である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

志願者数の増加は、大学全体の入試施策に基づき、受験の機会を増やしたことが主たる要因であったと理解している。志願者数を維持するために、本学部としては一般入試の志願者数のほとんどが希望している「キリスト教思想・文化コース」のより一層の充実を検討中である。

神学部が伝道者育成校として関与する日本基督教団の教師試験制度において、神学専門科目の単位を科目等履修生として取得した場合、その科目の学科試験が免除される制度が設けられている。「受講の目的を明確化した学習課程(ディプロマ・コース)」とは、何らかの理由で大学に入学することはできないが、伝道者を志願する者が神学専門科目を学び、その試験ならびに実務に備えることができる可能性を明示することを考えている。なお、その実施にあたっては日本基督教団とのより密接な連携が求められる。さらに、一般の科目等履修生においても、神学を体系的に学ぶことができる「聖書学コース(例)」のような学習過程の設置を検討中である。

学内第三者評価

AO入試の定員数を15名から10名に削減したところ12名の志願者があった。一方、指定校推薦とスポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験についてはそれぞれ募集人員が若干名のところ、3名と2名を入学させている。少数入学定員の学部においては、一般入試と各種入試の定員配分は難しいと推察されるが、客観的データ分析に基づいて最善策を講ずることが望まれる。

また、2008年度の特徴は志願者数が前年度に比べて2.4倍増になっている。これまでも漸増傾向にあったが、2008年度の志願者増が一時的なものであるか、継続するものであるかの見極めも大切になってくる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
科目等履修生の報告の中で、「受講の目的を明確化した学習課程(ディプロマ・コース)については、引き続き課題である」について、詳述されることが望まれる。
また、2008年度の志願者総数が2倍以上の水準に大幅増加した理由についての検証が望まれる。